

# 岡山県感染症週報 2017年 第49週 (12月4日～12月10日)

岡山県は『食中毒（ノロウイルス）注意報』を発令しました。（12月14日）

岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です。

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

【お知らせ】 今週から『感染性胃腸炎週報』の掲載を開始しました。

## ◆2017年 第49週（12/4～12/10）の感染症発生動向（届出数）

### ■全数把握感染症の発生状況

- 第47週 2類感染症 結核 1名（80代 女）  
5類感染症 ウイルス性肝炎 1名（20代 女）  
第48週 5類感染症 後天性免疫不全症候群 1名（50代 女）  
侵襲性肺炎球菌感染症 1名（70代 男）  
第49週 2類感染症 結核 3名（小学生 男 1名、50代 女 1名、90代 女 1名）  
5類感染症 ウイルス性肝炎 1名（60代 男）  
後天性免疫不全症候群 1名（20代 男）

### ■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点84、小児科定点54、眼科定点12、STD定点17、基幹定点5

- インフルエンザは、県全体で440名（定点あたり1.37 → 5.24人）の報告があり、前週より大きく増加しました。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で81名（定点あたり1.37 → 1.50人）の報告があり、前週とほぼ同数でした。
- 感染性胃腸炎は、県全体で472名（定点あたり7.83 → 8.74人）の報告があり、前週より増加しました。

### 【第50週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が28施設でありました。（12月11日～14日）

1. **インフルエンザ**は、県全体で440名（定点あたり1.37 → 5.24人）の報告があり、前週より大きく増加しました。岡山県は、12月7日に「**インフルエンザ注意報**」を発令し、広く注意を呼びかけています。地域別では、倉敷市（11.13人）、備中地域（6.33人）、岡山市（5.23人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など、詳しくは「**インフルエンザ週報**」及び岡山県感染症情報センターホームページ『**2017/2018年シーズン インフルエンザ情報「インフルエンザ注意報」発令中!**』をご覧ください。
2. **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**は、県全体で81名（定点あたり1.37 → 1.50人）の報告があり、前週とほぼ同数でした。患者数の大きな増加はありませんが、過去10年間の同時期と比較して高いレベルで推移しています。地域別では、倉敷市（2.73人）、岡山市（2.29人）の順で多くなっており、真庭地域を除く全ての地域で患者が報告されています。県内の発生状況など、詳しくは「**今週の注目感染症**」をご覧ください。
3. **感染性胃腸炎**は、県全体で472名（定点あたり7.83 → 8.74人）の報告があり、前週より増加しました。定点あたり報告数が2週連続で1.1倍以上に増加したことから、岡山県は12月14日に「**食中毒（ノロウイルス）注意報**」を発令し、食中毒予防を呼びかけています。県内の発生状況など詳しくは、「**感染性胃腸炎週報**」及び岡山県感染症情報センターホームページ『**2017/2018年 感染性胃腸炎情報**』をご覧ください。

## 流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	▲	★★	RSウイルス感染症	▲	★
咽頭結膜熱	▲	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	▲	★★
感染性胃腸炎	▲	★★★★	水痘	▲	★
手足口病	▲	★	伝染性紅斑	▲	★
突発性発疹	▲	★	百日咳	▼	
ヘルパンギーナ	▲	★	流行性耳下腺炎	▲	★
急性出血性結膜炎	▲	★	流行性角結膜炎	▲	★
細菌性髄膜炎	▲		無菌性髄膜炎	▲	
マイコプラズマ肺炎	▲	★	クラミジア肺炎	▲	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	▼	* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013年第42週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

【記号の説明】 前週からの推移： ▲：大幅な増加 ▲：増加 ▲：ほぼ増減なし ▼：大幅な減少 ▼：減少  
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。（発生数が多いことを示すものではありません。）

空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

## 年末年始に海外へ渡航される方へ

年末年始に海外へ渡航される方に向けた感染症情報が、厚生労働省のホームページに掲載されています。

海外には、通常日本国内に存在しない感染症が多くあります。海外で感染症にかからないようにするには、出発前にあらかじめ渡航先の感染症に関する情報を入手しておくことが大切です。

### 旅行中の注意

- ・生水、氷、カットフルーツ、サラダやラクダの乳など、火が通っていないものを食べることは避けましょう。
- ・肌の露出を少なくする、虫よけ剤（ディートやイカリジン含有）を使用するなど、蚊やダニに刺されないように注意しましょう。
- ・動物には、むやみに近づいたり、触らないようにしましょう。  
（狂犬病、中東呼吸器症候群（MERS）や鳥インフルエンザなどのウイルスをもっていることがあります。）
- ・外出後は、しっかり手洗いをしましょう。

### 帰国した後に

- ・帰国時に発熱や下痢などの症状がある方は、空港の検疫所に相談してください。
- ・帰国時に症状がなくても、その後体調が悪くなったときは、早めに医療機関を受診し、その際は必ず渡航先も伝えてください。

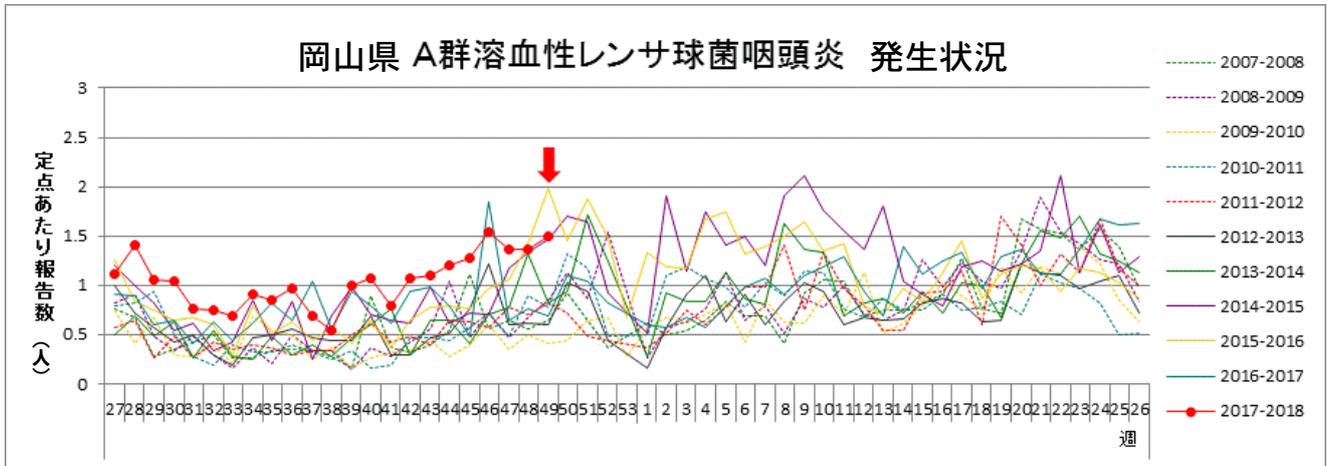
[年末年始における海外での感染症予防について（厚生労働省）](#)

[年末年始に海外へ渡航される皆さまへ！（厚生労働省検疫所）](#)

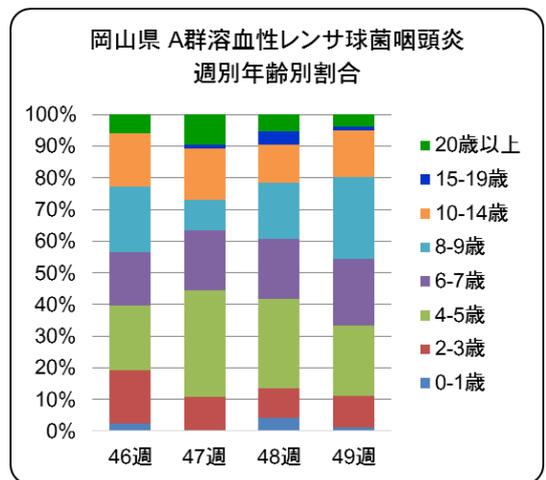
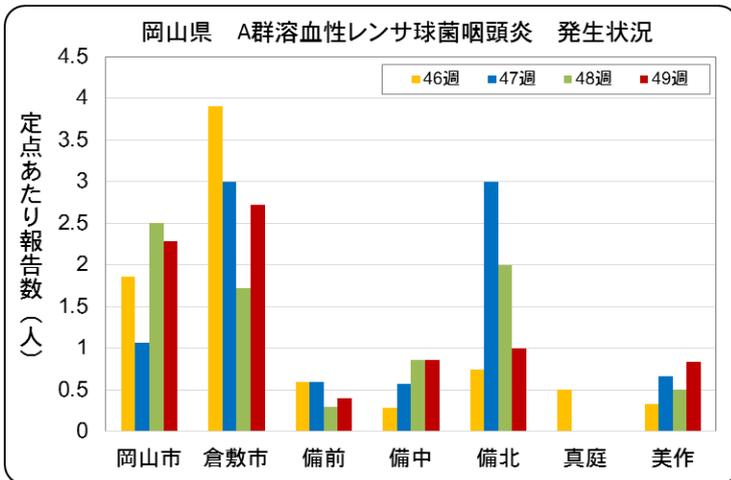
# 今週の注目感染症

## A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

【岡山県の発生状況】

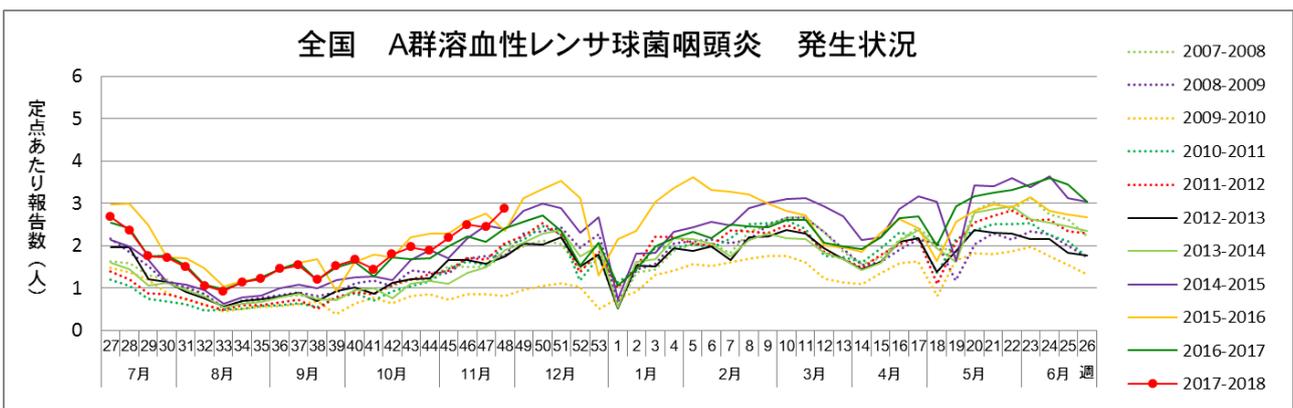


※A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、今年27週～翌年26週を1シーズンとしてグラフを作成しています。

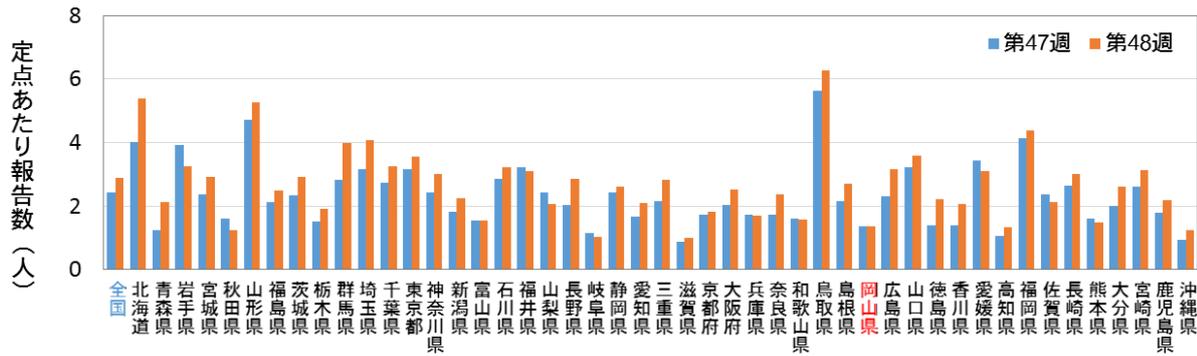


A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で81名（定点あたり1.37 → 1.50人）の報告があり、前週とほぼ同数でした。患者数の大きな増加はありませんが、過去10年間の同時期と比較して高いレベルで推移しています。地域別では、倉敷市（2.73人）、岡山市（2.29人）の順で多くなっており、真庭地域を除く全ての地域で患者が報告されています。第49週年齢別割合をみると、10歳未満の小児が全体の80%を占めており、8～9歳の割合が前週より増加しています。

【全国の発生状況】



## 2017年 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 発生状況



全国の第 48 週 (11/27~12/3) の発生状況は、定点あたり報告数が 2.88 人であり、前週より増加しました。過去 10 年間と比較して患者の発生が多い状態で推移しています。都道府県別では、鳥取県 (6.26 人)、北海道 (5.38 人)、山形県 (5.27 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。近隣県でも多くの患者が報告されていますので、ひきつづき県内の発生状況に注意するとともに、うがいや手洗いを励行するなど感染予防に努めましょう。

[IDWR 速報データ 2017 年第 48 週 \(国立感染症研究所\)](#)

### 【A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは】

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、就学前から学童期の小児に多い感染症です。A 群レンサ球菌による上気道感染症で、感染経路はヒトからヒトへの飛沫感染や接触感染が主ですが、食品を介する経口感染もあるといわれています。そのため、家庭での兄弟間や、学校・保育施設などの小児の集団生活施設内での感染も多いとされています。季節的には、冬季及び春から初夏にかけて、2つの報告数のピークが確認されます。

### 【症状】

潜伏期間は 2~5 日で、突然の発熱と体のだるさ、のどの痛みで発症し、しばしばおう吐を伴います。また、口腔内に小点状出血あるいは莓舌 (イチゴのように赤くブツブツしている舌) がみられることがあります。通常、発熱は 3~5 日以内に下がり、主症状は 1 週間以内に消失する予後が良好な疾患ですが、合併症として、肺炎、髄膜炎、敗血症などの化膿性疾患、あるいはリウマチ熱、急性糸球体腎炎などの非化膿性疾患を生じることもあります。また、菌が産生する毒素に免疫がない場合は猩紅熱に発展する場合があります。猩紅熱では、発熱開始後 12~24 時間すると点状紅斑様、日焼け様の皮しんが出現し、針頭大の皮しんにより、皮膚が紙やすり様の手触りになることがあります。

### 【治療・予防】

治療には、ペニシリン系抗菌薬が第一選択薬とされていますが、ペニシリンアレルギーがある場合は、マクロライド系やセフェム系の抗菌薬が投与されます。いずれの薬剤も少なくとも 10 日間は、確実に投与することが必要です。

予防としては、患者との濃厚接触を避けることが最も重要であり、うがい、手洗いの実施や、咳エチケットなどの一般的な予防法が効果的とされています。

[A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは \(国立感染症研究所\)](#)

## インフルエンザ週報 2017年 第49週 (12月4日～12月10日)

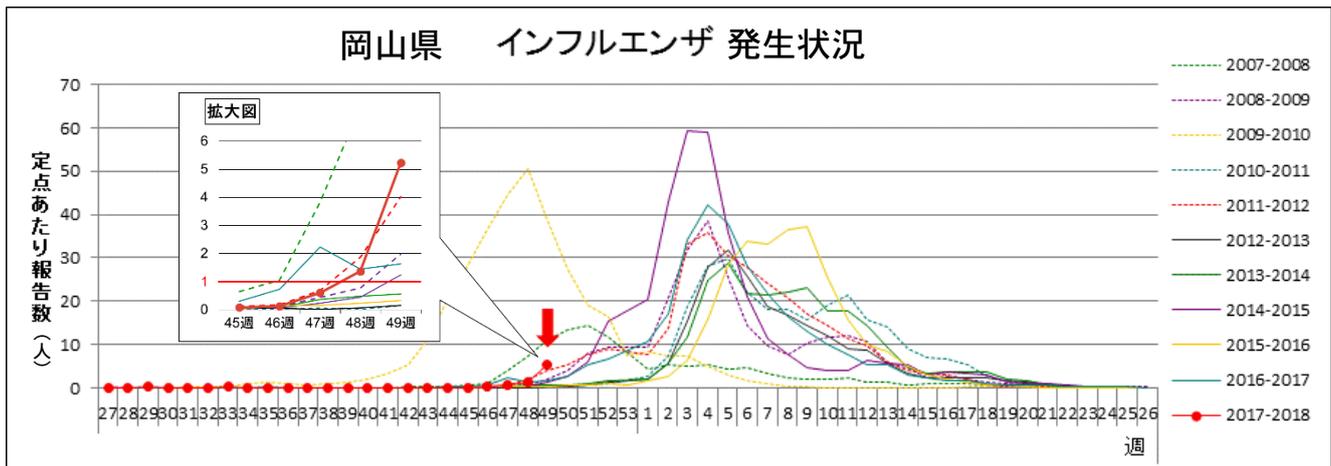
岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です。

## ➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で440名(定点あたり5.24人)の報告がありました。(84 定点医療機関報告)
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が12施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者1名の報告がありました。

## 【第50週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が28施設でありました。(12月11日～14日)



※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第27週～翌年第26週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で440名(定点あたり1.37 → 5.24人)の報告があり、前週より大きく増加しました。岡山県は、12月7日に「**インフルエンザ注意報**」を発令し、広く注意を呼びかけています。地域別では、倉敷市(11.13人)、備中地域(6.33人)、岡山市(5.23人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。真庭地域を除く全ての地域で患者の発生がありますが、特に岡山市、倉敷市、備前地域、備中地域及び美作地域では、前週より大きく増加しました。第50週(12/11～)速報でも、学校等の臨時休業が28施設で報告されており、今後の患者の増加が懸念されます。県内の発生状況に注意するとともに、『外出後や食事前の手洗いを徹底する』、『人混みを避け、人混みに入るときはマスクを着用する』、『十分な睡眠を取る』など、感染予防に努めましょう。

[インフルエンザ Q&A \(厚生労働省\)](#)

## ◆インフルエンザは流行期に入っています。

## 感染予防に努めましょう。

## 【 予 防 】

- \* 外出後は手洗いをしましょう。アルコールを含んだ消毒剤で手を消毒するのも効果的です。
- \* 人混みでは、マスクを着用しましょう。
- \* 十分な睡眠をとり、バランスの良い食事を心がけて、抵抗力をつけましょう。
- \* 室内では加湿器を使うなど、適度な湿度(50～60%)を保ちましょう。

## 【 かかったかな? という時には 】

- \* 早めに医療機関を受診しましょう。
- \* 水分を十分にとり、安静にして休養をとりましょう。
- \* 周りの人にうつさないように、『**咳エチケット**』を心がけましょう。

『**咳エチケット**』 ～ 咳やくしゃみをするときは ～

1. 周囲の人からなるべく離れましょう。
2. 他の人から顔をそらせ、ティッシュなどで口と鼻を覆いましょう。
3. 口と鼻を覆った手は、石鹸で丁寧に洗いましょう。
4. 咳やくしゃみが出ている間は、マスクを着用しましょう。

1. 地域別発生状況  
前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	440	↑	備 中	患者数	76	↑
	定点あたり	5.24			定点あたり	6.33	
岡山市	患者数	115	↑	備 北	患者数	11	↗
	定点あたり	5.23			定点あたり	1.83	
倉敷市	患者数	178	↑	真 庭	患者数	0	→
	定点あたり	11.13			定点あたり	0.00	
備 前	患者数	19	↑	美 作	患者数	41	↑
	定点あたり	1.27			定点あたり	4.10	

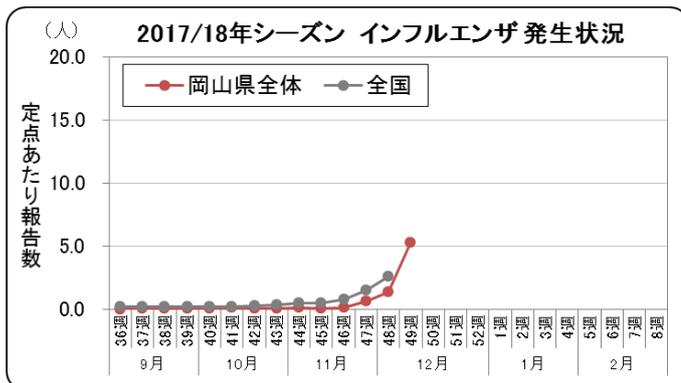
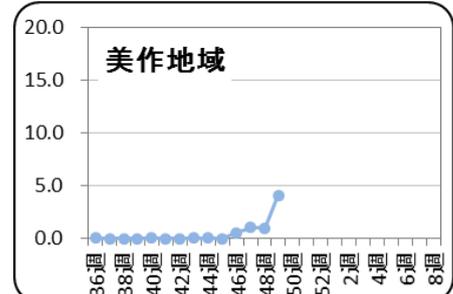
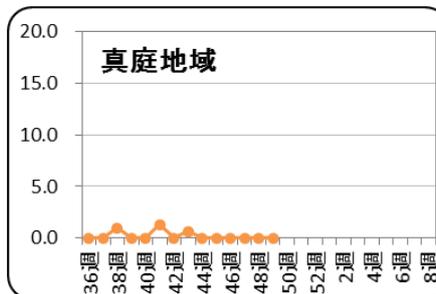
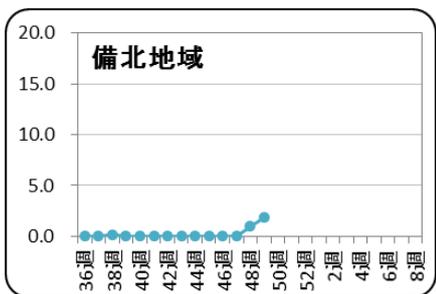
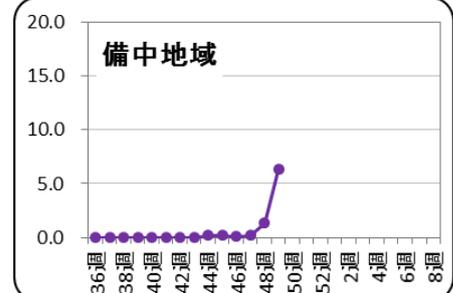
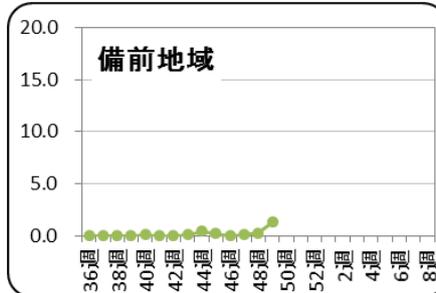
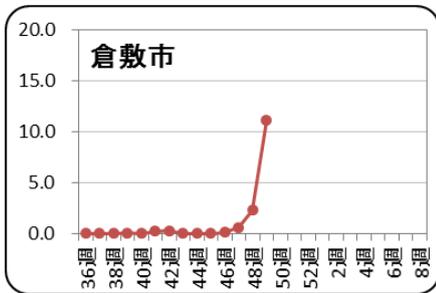
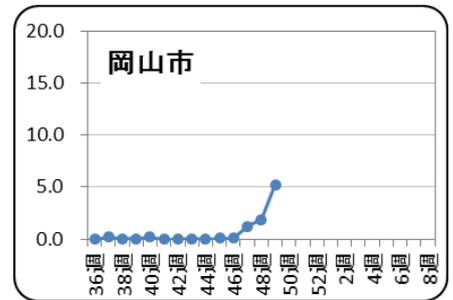
【記号の説明】 前週からの推移  
 ↑：大幅な増加    ↗：増加    →：ほぼ増減なし    ↓：大幅な減少    ↘：減少  
 大幅：前週比 100%以上の増減    増加・減少：前週比 10～100%未満の増減

インフルエンザ感染症マップ



<インフルエンザ発生レベル 基準>

レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10 以上 30 未満
レベル1		報告なし
基準値		基準値
0 < 10 未満		0

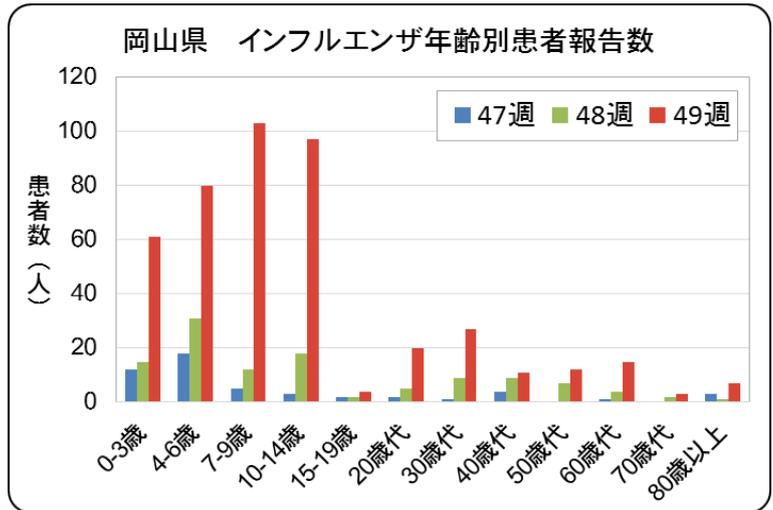
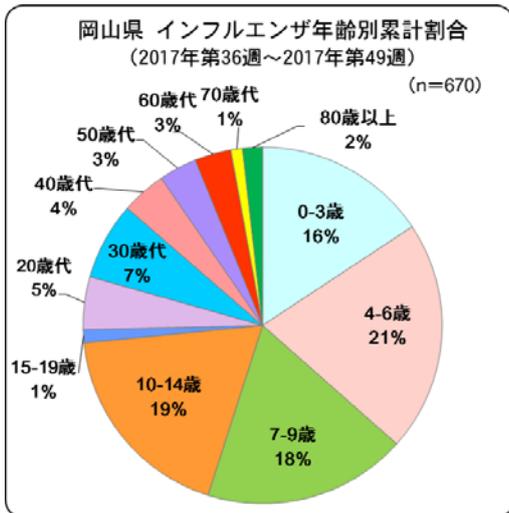


全国集計第 48 週（11/27～12/3）速報値によると、全国の定点あたり報告数は 2.58 人となり、前週（1.47 人）より増加しました。都道府県別では、長崎県（6.19 人）、沖縄県（6.00 人）、宮崎県（5.47 人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、全都道府県で前週の報告数よりも増加がみられました。

[インフルエンザの発生状況について\(厚生労働省\)](#)

## 2. 年齢別発生状況

今シーズン（2017/9/4～）の年齢別累計割合は、4-6歳 21%、10-14歳 19%、7-9歳 18%の順で高くなっています。

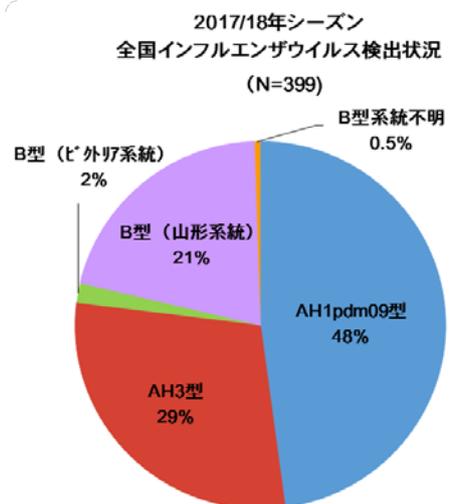
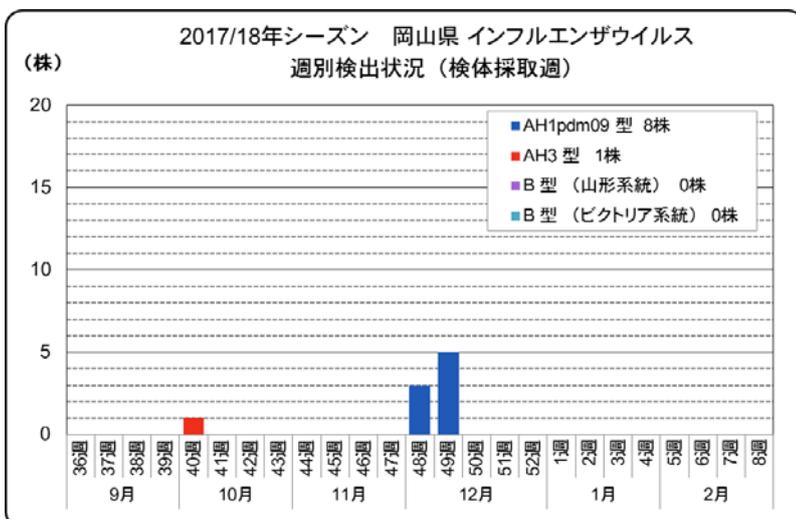


## 3. インフルエンザウイルス検出状況

第49週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、5株（詳細は下表参照）でした。今シーズン、これまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは9株で、その内訳は、AH1pdm09型 8株、AH3型 1株となっています。

今シーズン、全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09型 48%、AH3型 29%、B型 23.5%〔山形系統 21%・ビクトリア系統 2%・系統不明 0.5%〕が検出されています（12月8日現在）。

ウイルス名	検体採取週	検体採取日	地域	年齢	性別	備考
インフルエンザウイルスAH1pdm09	2017年第49週(12/4～12/10)	2017/12/5	備中	小学生	男	集団発生事例
インフルエンザウイルスAH1pdm09	2017年第49週(12/4～12/10)	2017/12/4	美作	小学生	男	集団発生事例
インフルエンザウイルスAH1pdm09	2017年第49週(12/4～12/10)	2017/12/4	美作	小学生	女	集団発生事例
インフルエンザウイルスAH1pdm09	2017年第49週(12/4～12/10)	2017/12/4	美作	小学生	男	集団発生事例
インフルエンザウイルスAH1pdm09	2017年第49週(12/4～12/10)	2017/12/4	美作	小学生	女	集団発生事例

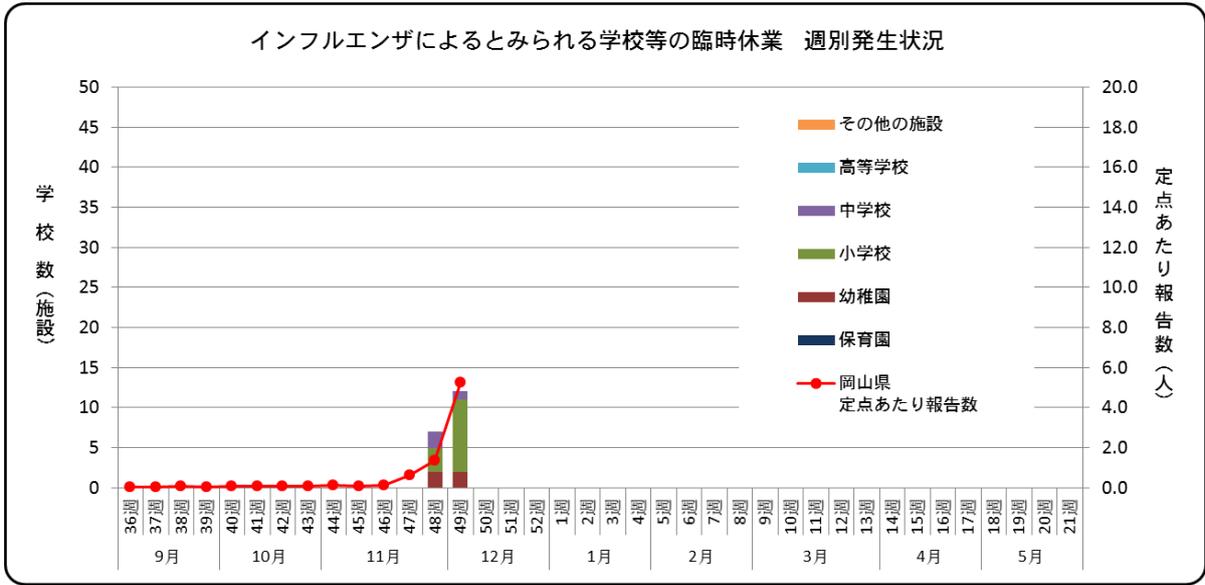


#### 4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 12 施設でありました。

【第 49 週 臨時休業施設数】

▽倉敷市 4   ▽岡山市 2   ▽高梁市 2   ▽美作市 2   ▽早島町 2



##### 1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

\* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	137	233	126	197	12	19	—	—	4	4	8	15	H29.11.27
岡山市	25	96	25	77	2	6	—	—	—	—	2	6	H29.11.27
倉敷市	65	90	59	78	4	7	—	—	—	—	4	7	H29.11.27
備前地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
備中地域	25	25	23	23	3	3	—	—	1	1	2	2	H29.12.5
備北地域	5	5	4	4	1	1	—	—	1	1	—	—	H29.12.4
真庭地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
美作地域	17	17	15	15	2	2	—	—	2	2	—	—	H29.12.4

##### 2) 臨時休業施設数の内訳

第 49 週：12 施設

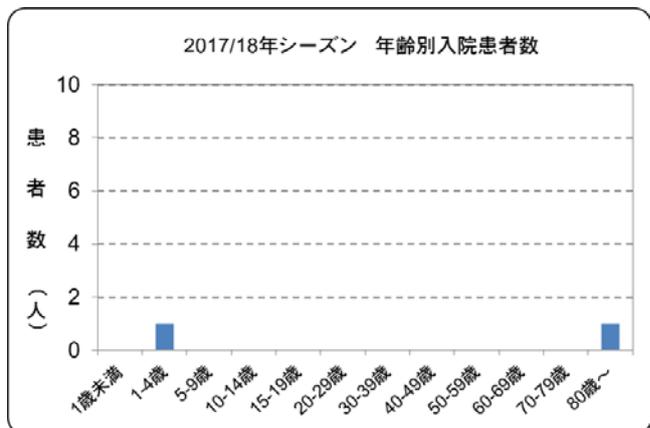
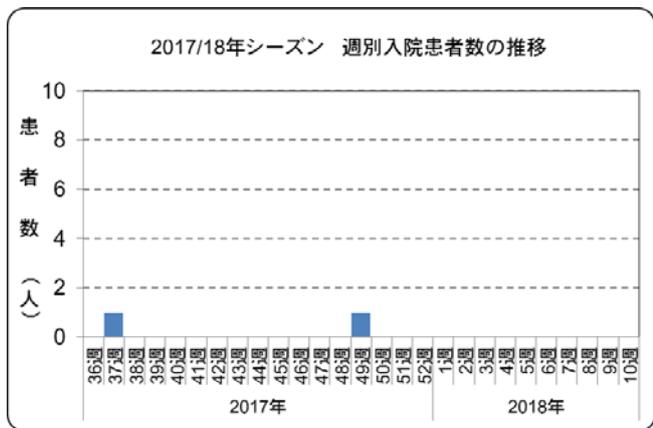
累計：19 施設

施設数	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	2	4	9	12	1	3	—	—	—	—

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、1 名（80 歳以上）の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので、注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関を受診しましょう。



【第 49 週 入院患者報告数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数												1	1
ICU 入室 *													
人工呼吸器の利用 *													
頭部 CT 検査(予定含) *													
頭部 MRI 検査(予定含) *													
脳波検査 (予定含) *													
いずれにも該当せず												1	1

\* 重複あり

【2017 年 9 月 4 日以降に入院した患者の累計数】

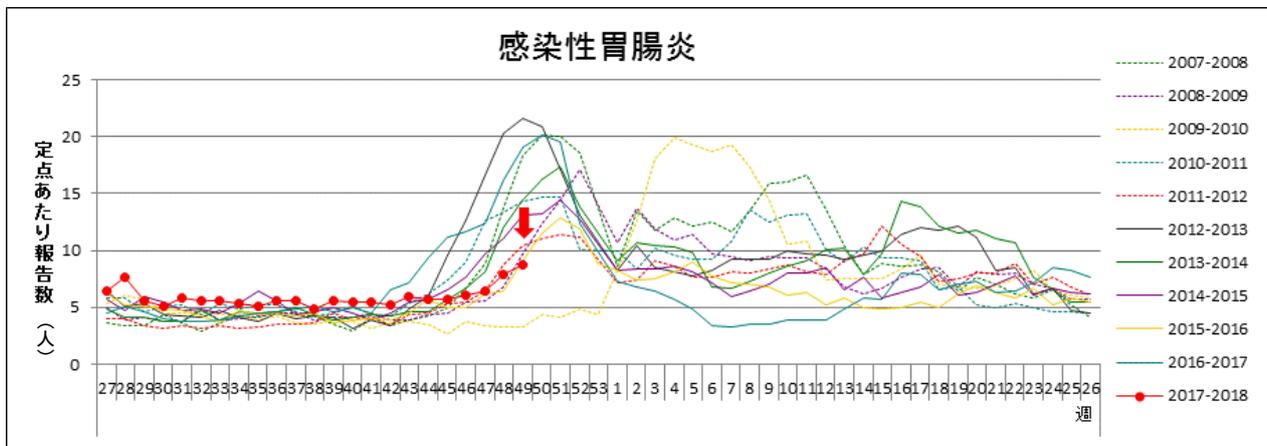
年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数		1										1	2
ICU 入室 *		1											1
人工呼吸器の利用 *													
頭部 CT 検査(予定含) *		1											1
頭部 MRI 検査(予定含) *		1											1
脳波検査 (予定含) *		1											1
いずれにも該当せず												1	1

\* 重複あり

# 感染性胃腸炎週報 2017年 第49週 (12月4日～12月10日)

## ➤ 岡山県の流行状況

○感染性胃腸炎は、県全体で472名(定点あたり8.74人)の報告がありました。(54定点医療機関報告)

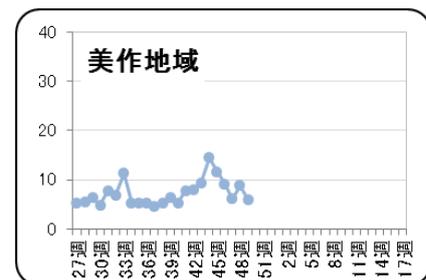
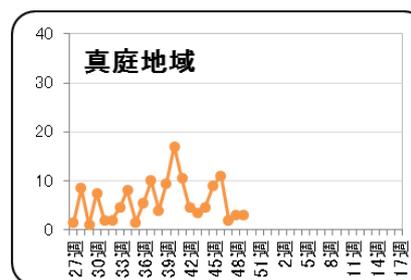
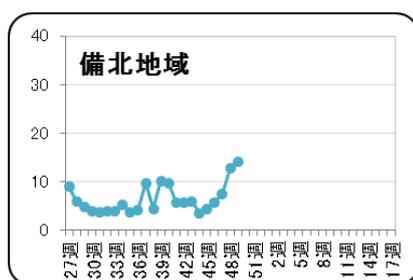
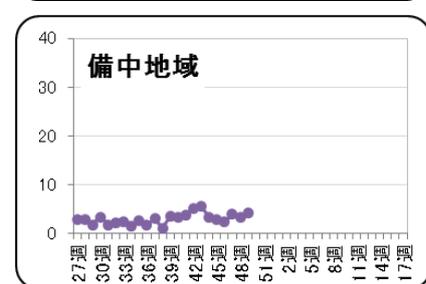
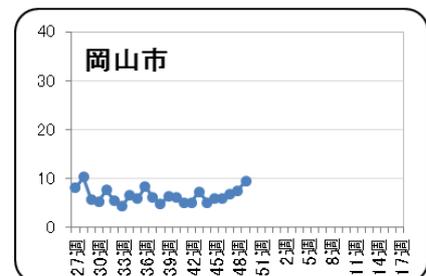
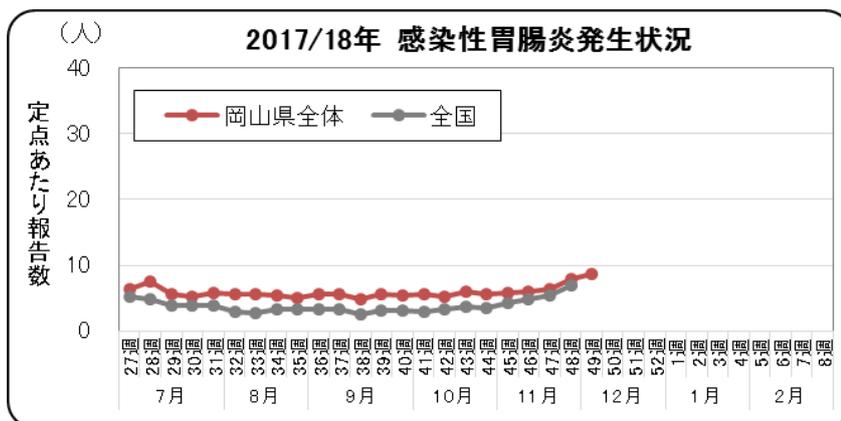


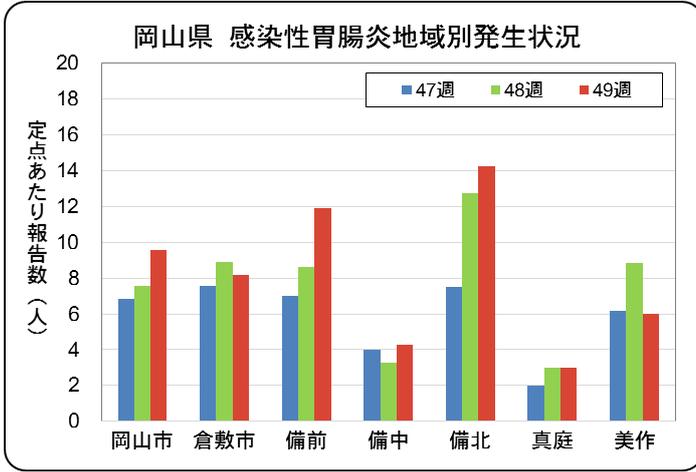
※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27週～翌年26週でグラフを作成しています。

感染性胃腸炎は、県全体で472名(定点あたり7.83→8.74人)の報告があり、前週より増加しました。

冬の感染性胃腸炎の原因は、ノロウイルスなどのウイルスによるものが多いと言われています。手洗いの徹底や、下痢便・おう吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。また、小さなお子さんや高齢の方は、おう吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診しましょう。

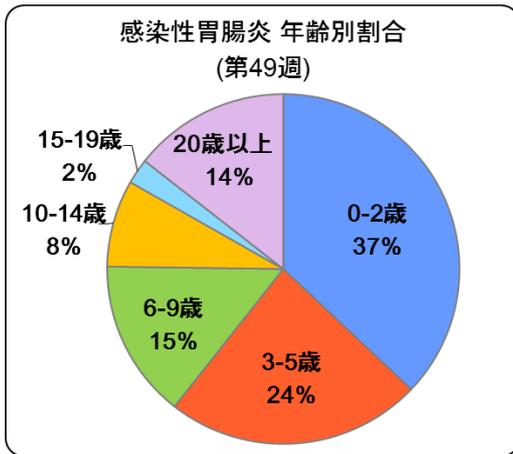
## ◆地域別・年齢別発生状況





レベル3		レベル1	報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値
20	12	0 20未満	0

レベル3の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がらないとレベル3が継続されます。



地域別では、備北地域（14.25人）、備前地域（11.90人）、岡山市（9.57人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。

第49周年齢別割合では、0-2歳 37%、3-5歳 24%、6-9歳 15%の順で高くなっています。

## ◆◆ ノロウイルスによる感染性胃腸炎に気をつけましょう ◆◆

### 予 防 方 法

#### 1. 最も大切なことは、手を洗うことです。

排便後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

#### 2. 処理をする人自身が感染しないように気をつけましょう。

おう吐物や下痢便にはウイルスが大量に含まれています。処理をするときは、使い捨ての上着や、マスク、手袋を着用し、下痢便、おう吐物をペーパータオル等で静かに拭き取りましょう。拭き取った後は、**次亜塩素酸ナトリウム（※家庭用塩素系漂白剤でも代用可）**で浸すように床を拭き取り、その後水拭きをしましょう。また、処理をした後はしっかりと流水で手を洗いましょう。

#### 3. おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、85℃で1分間以上の熱水洗濯か**次亜塩素酸ナトリウム（※家庭用塩素系漂白剤でも代用可）**での消毒が有効です。

おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、ウイルスが飛び散らないように汚物を除去し、洗剤を入れた水の中で静かにもみ洗った後、熱水が利用可能である洗濯機があれば熱水洗濯、または次亜塩素酸ナトリウムで消毒をしましょう。

#### 4. 食品は、中心部まで十分に加熱しましょう。（中心部を85～90℃で90秒間以上）

二枚貝の生食を控えましょう。中心部までしっかり加熱すれば安心です。

※塩素系漂白剤を使用する際には、「使用上の注意」を確認しましょう。

○ノロウイルスに関するQ&A（厚生労働省）

○ノロウイルス感染症とその対応・予防（家庭等一般の方々へ）（国立感染症研究所）

保健所別報告患者数 2017年 49週(定点把握)

( 2017/12/04~2017/12/10 )

2017年12月14日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	440	5.24	115	5.23	178	11.13	19	1.27	76	6.33	11	1.83	-	-	41	4.10
RSウイルス感染症	41	0.76	17	1.21	7	0.64	2	0.20	9	1.29	2	0.50	-	-	4	0.67
咽頭結膜熱	14	0.26	7	0.50	1	0.09	2	0.20	-	-	-	-	-	-	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	81	1.50	32	2.29	30	2.73	4	0.40	6	0.86	4	1.00	-	-	5	0.83
感染性胃腸炎	472	8.74	134	9.57	90	8.18	119	11.90	30	4.29	57	14.25	6	3.00	36	6.00
水痘	15	0.28	5	0.36	3	0.27	-	-	1	0.14	-	-	-	-	6	1.00
手足口病	19	0.35	10	0.71	6	0.55	1	0.10	-	-	-	-	-	-	2	0.33
伝染性紅斑	2	0.04	2	0.14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	15	0.28	8	0.57	1	0.09	2	0.20	1	0.14	1	0.25	1	0.50	1	0.17
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	0.02	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	4	0.07	2	0.14	1	0.09	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	1	0.08	-	-	1	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	0.42	5	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	2	0.40	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2.00	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

( - : 0 or 0.00 ) ( 空白 : 定点なし )

保健所別報告患者数 2017年 49週(発生レベル設定疾患)

( 2017/12/04~2017/12/10 )

2017年12月14日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	440	5.24	115	5.23	178	11.13	19	1.27	76	6.33	11	1.83	-	-	41	4.10
咽頭結膜熱	14	0.26	7	0.50	1	0.09	2	0.20	-	-	-	-	-	-	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	81	1.50	32	2.29	30	2.73	4	0.40	6	0.86	4	1.00	-	-	5	0.83
感染性胃腸炎	472	8.74	134	9.57	90	8.18	119	11.90	30	4.29	57	14.25	6	3.00	36	6.00
水痘	15	0.28	5	0.36	3	0.27	-	-	1	0.14	-	-	-	-	6	1.00
手足口病	19	0.35	10	0.71	6	0.55	1	0.10	-	-	-	-	-	-	2	0.33
伝染性紅斑	2	0.04	2	0.14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	0.02	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	4	0.07	2	0.14	1	0.09	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	1	0.08	-	-	1	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	0.42	5	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3  
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2 を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 ( 2017年 第49週 2017/12/04~2017/12/10 )

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
インフルエンザ	440	1	6	19	13	22	19	23	38	43	26	34	97	4	20	27	11	12	15	3	7

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~
RSウイルス感染症	41	13	12	7	5	1	1	1	-	-	-	1	-	-	-
咽頭結膜熱	14	-	-	5	2	2	1	2	-	-	-	-	1	1	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	81	-	1	-	2	6	9	9	12	5	12	9	12	1	3
感染性胃腸炎	472	6	26	98	45	40	40	31	34	9	14	12	38	11	68
水痘	15	-	-	1	1	3	1	-	-	1	2	3	3	-	-
手足口病	19	-	-	7	4	3	2	1	1	-	-	-	1	-	-
伝染性紅斑	2	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	15	1	5	5	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	4	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	2	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~	
急性出血性結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-

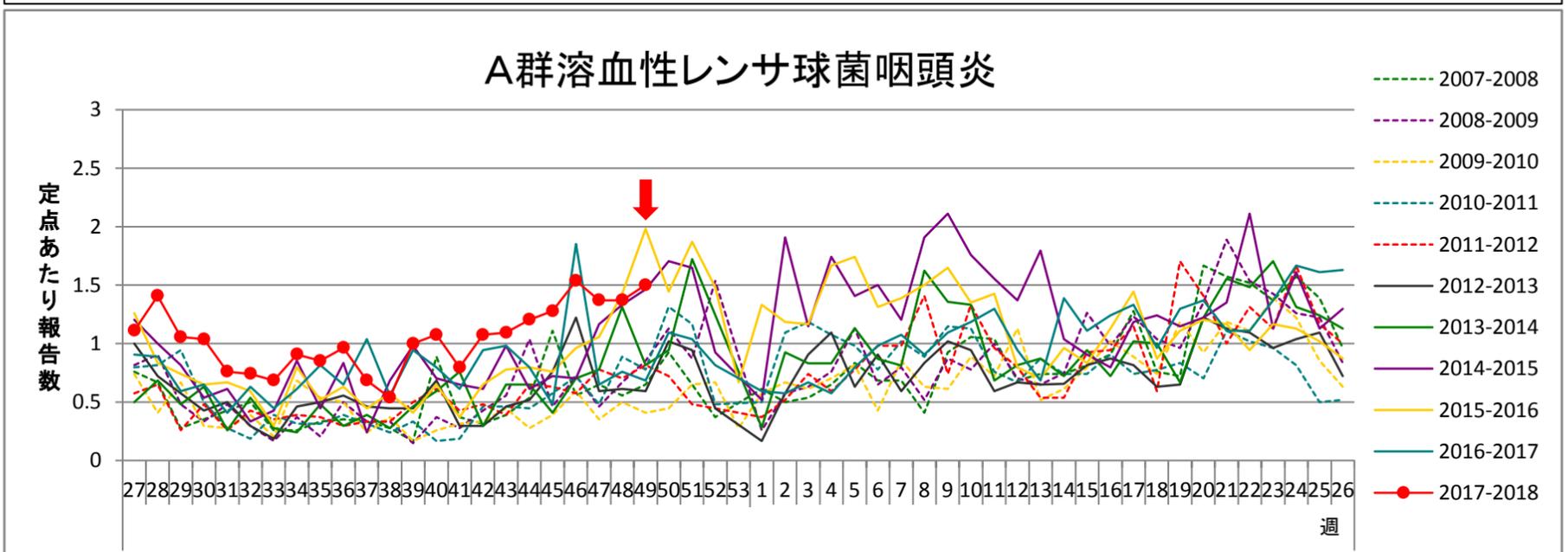
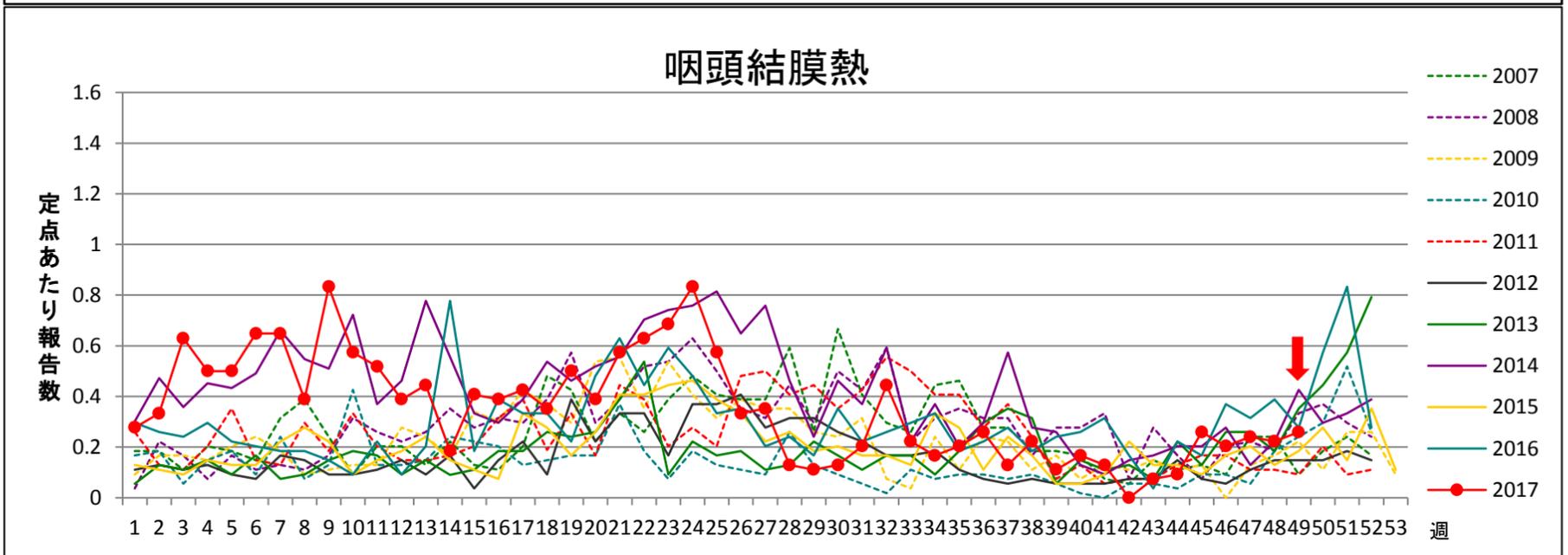
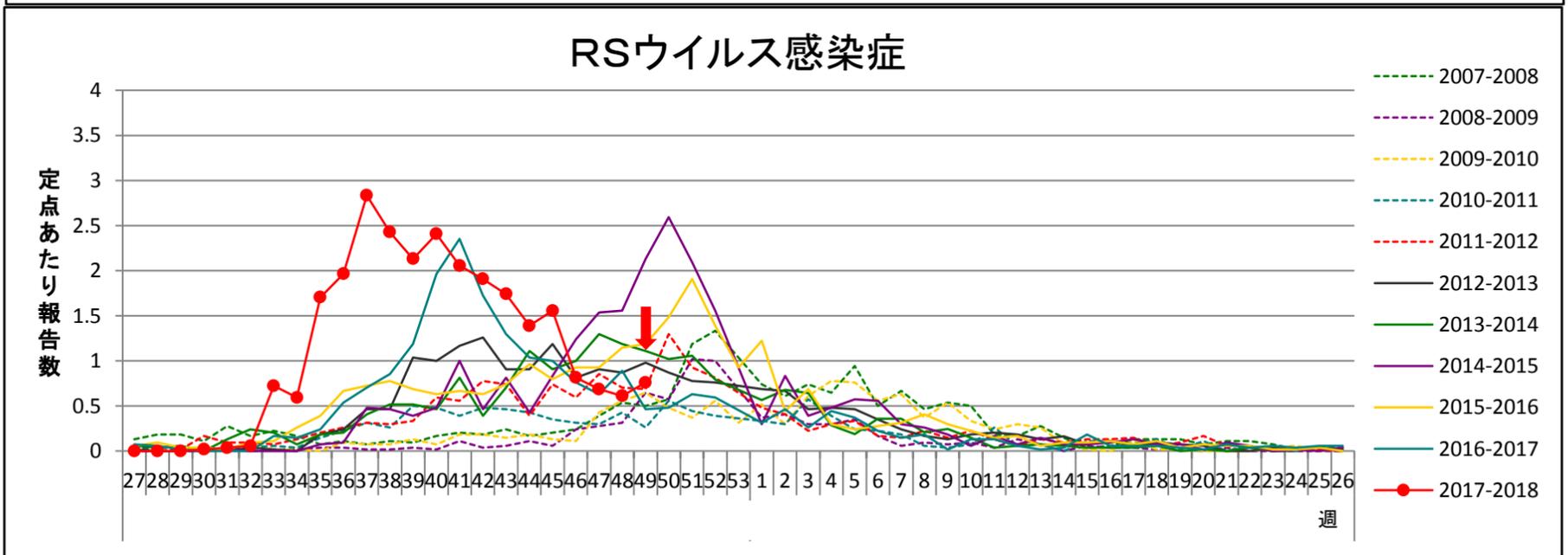
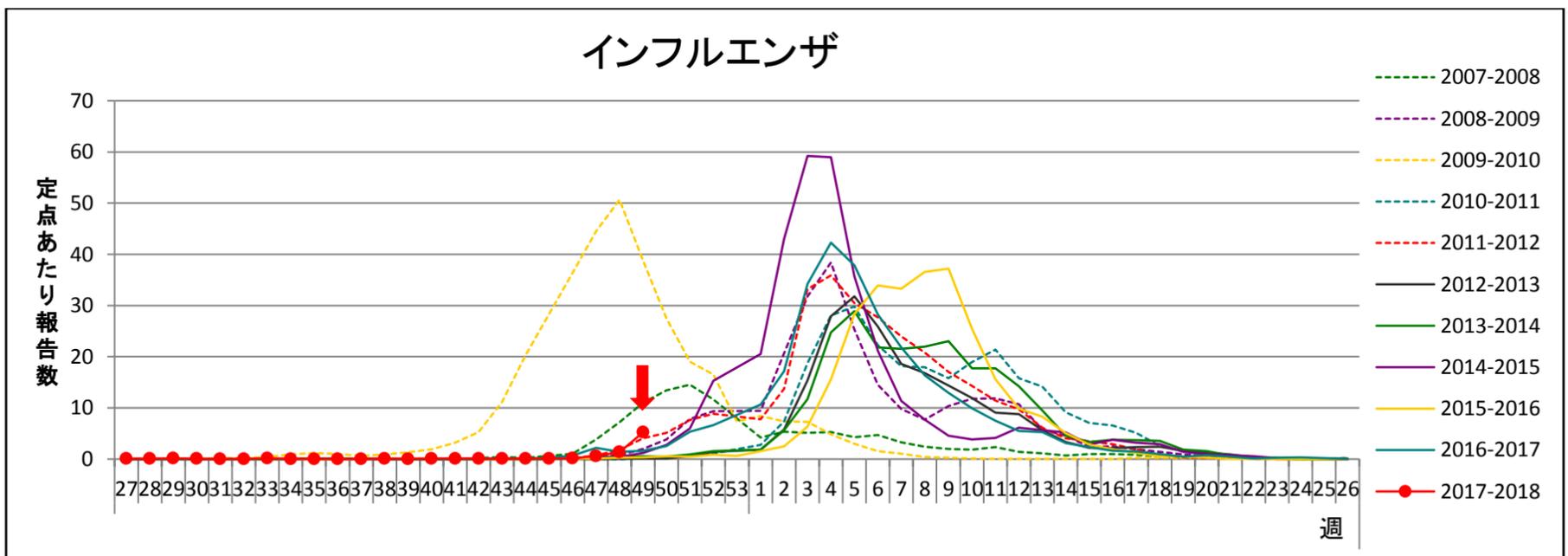
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	2	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

( - : 0 )

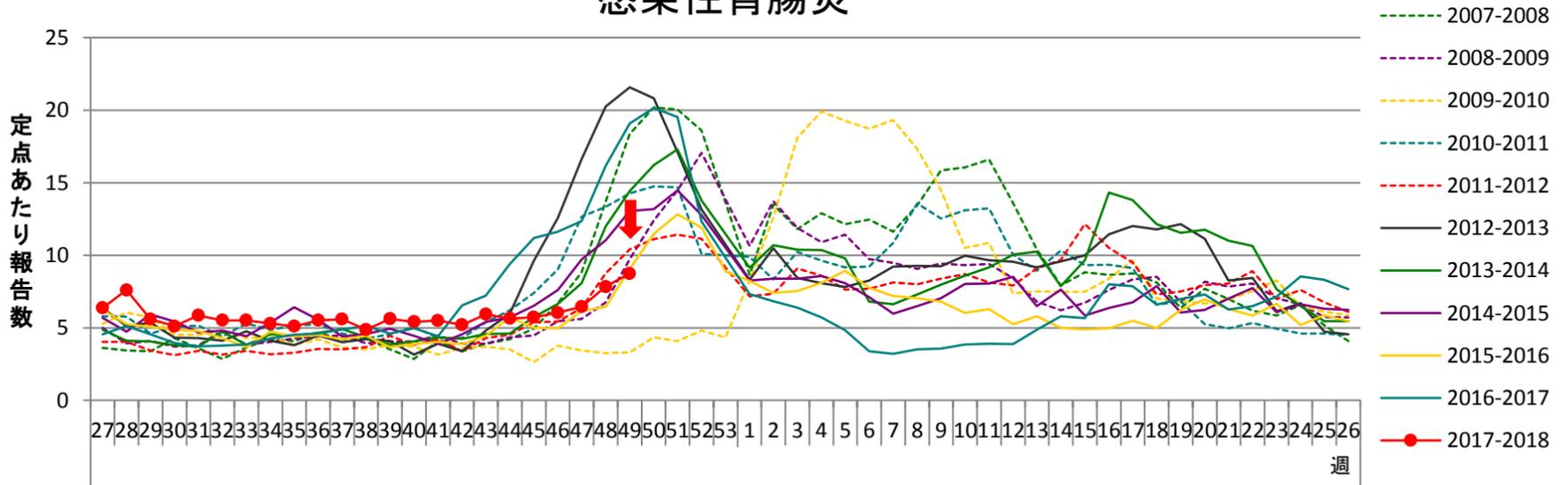
# 全数把握 感染症患者発生状況

2017年 49週

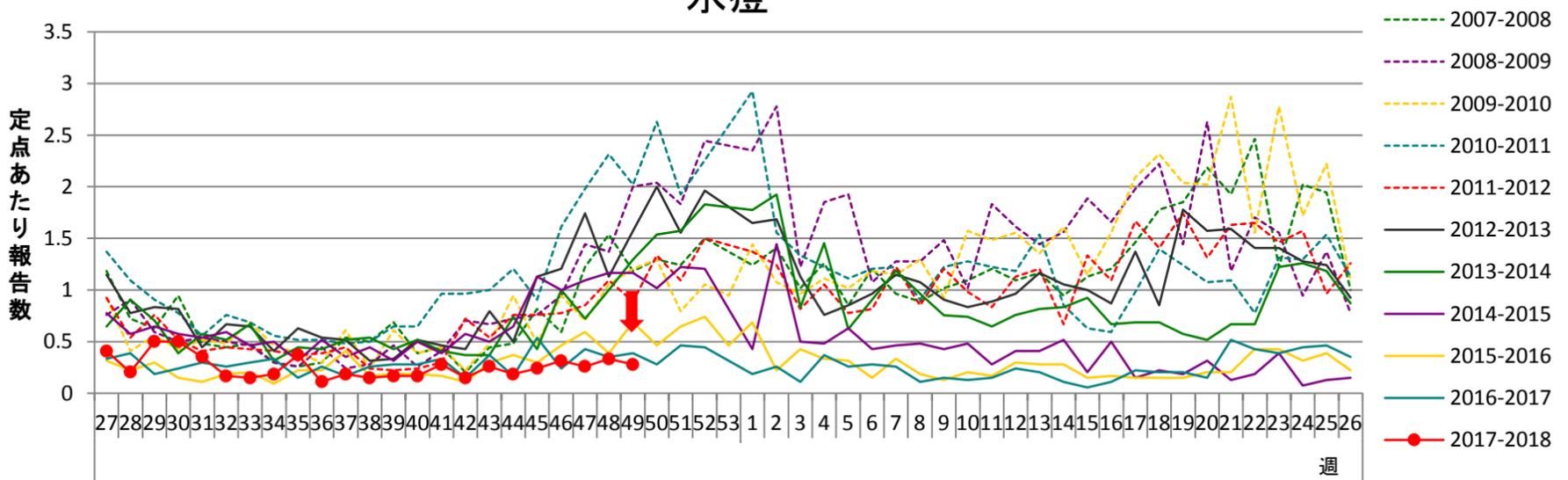
分類	疾病名	2017			疾病名	2016			疾病名	2017			2016		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年			
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	3	334	311	ジフテリア	-	-	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-
三類	コレラ	-	2	-	細菌性赤痢	-	3	-	腸管出血性大腸菌感染症	-	67	65	-	-	-
	腸チフス	-	1	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-	-	-	-
四類	E型肝炎	-	1	2	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	4	3	-	-	-
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-	-	-	-
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	1	-	-	-
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	1	2	-	-	-
	デング熱	-	2	1	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	1	日本紅斑熱	-	7	5	-	-	-
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	-	-	-	-
	野兎病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	29	26	-	-	-
レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-	-	-	-	
五類	アメーバ赤痢	-	19	18	ウイルス性肝炎	1	11	4	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	-	14	28	-	-	-
	急性脳炎	-	4	11	クリプトスポリジウム症	-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	3	3	-	-	-
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	7	7	後天性免疫不全症候群	1	20	12	ジアルジア症	-	-	1	-	-	-
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	1	7	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	侵襲性肺炎球菌感染症	-	35	32	-	-	-
	水痘(入院例に限る。)	-	6	3	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	-	160	40	-	-	-
	播種性クリプトコックス症	-	1	2	破傷風	-	-	4	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	-	-	-	-	-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	6	1	風しん	-	-	-	麻しん	-	-	-	-	-	-
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-



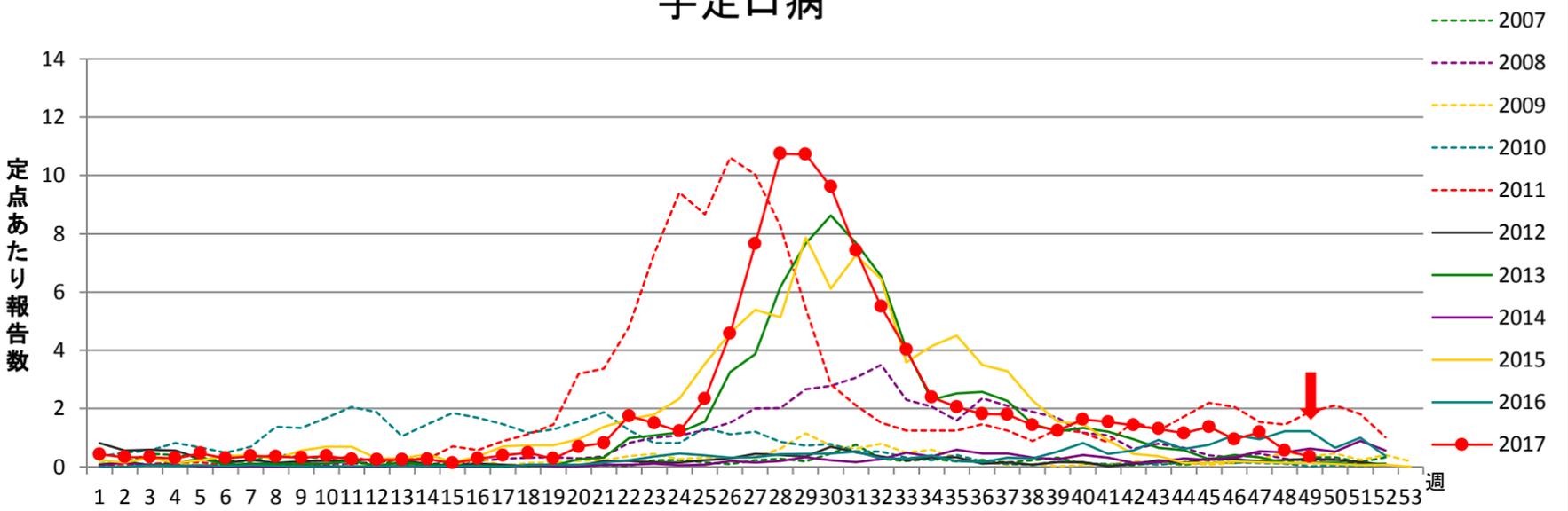
### 感染性胃腸炎



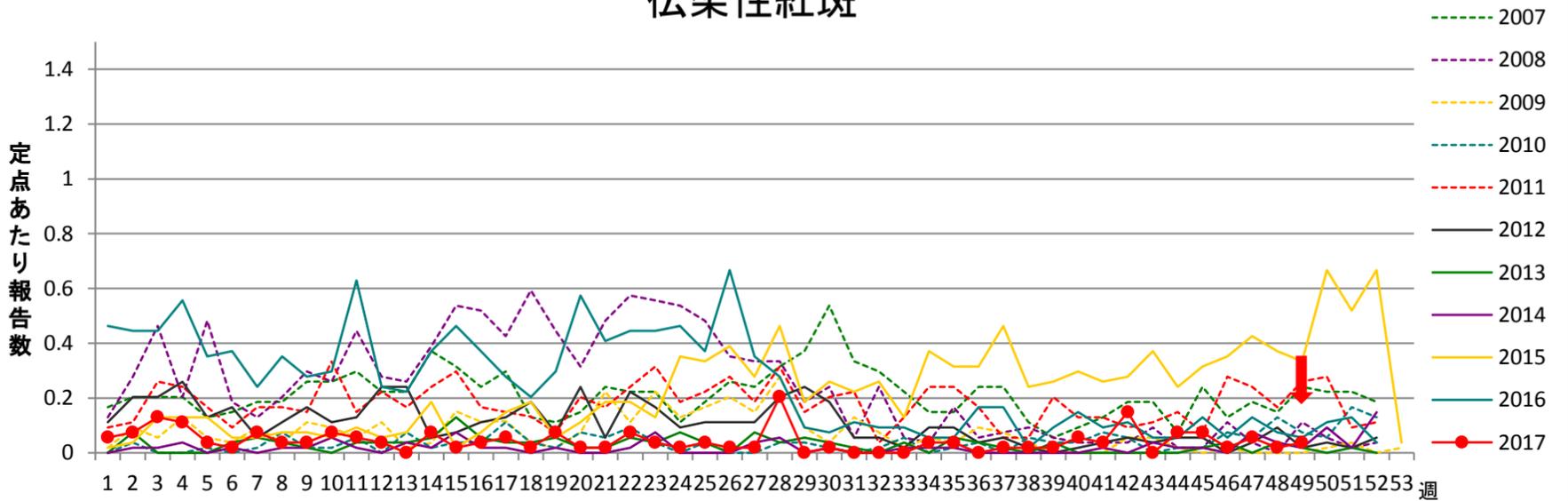
### 水痘



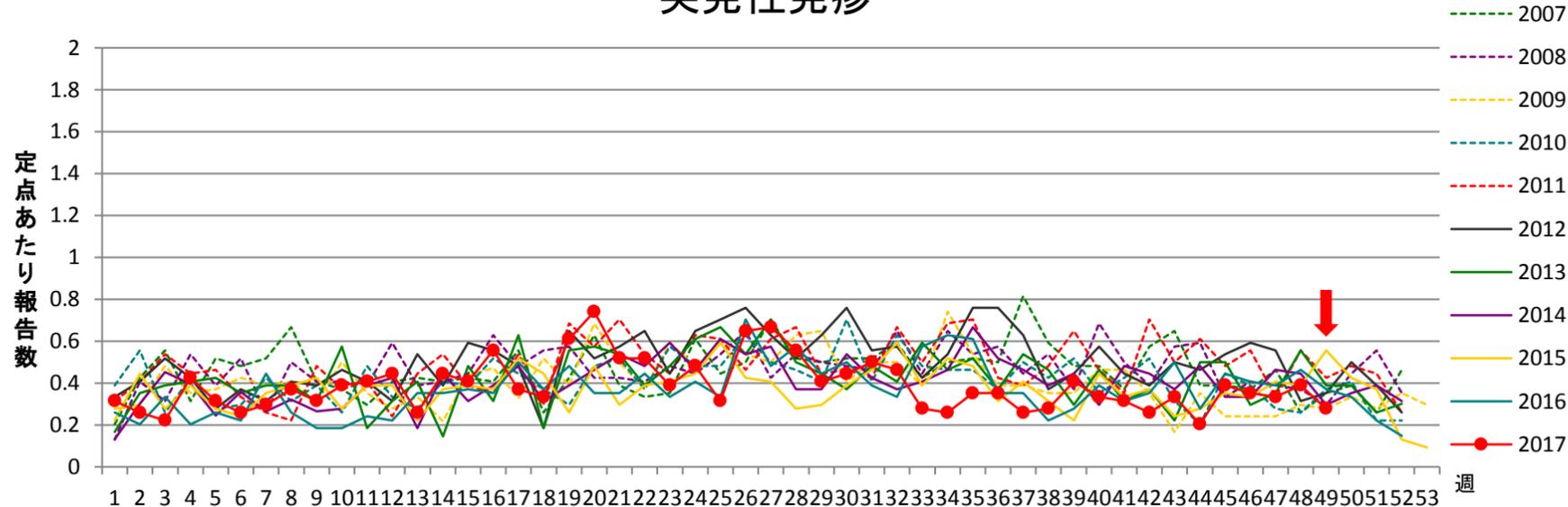
### 手足口病



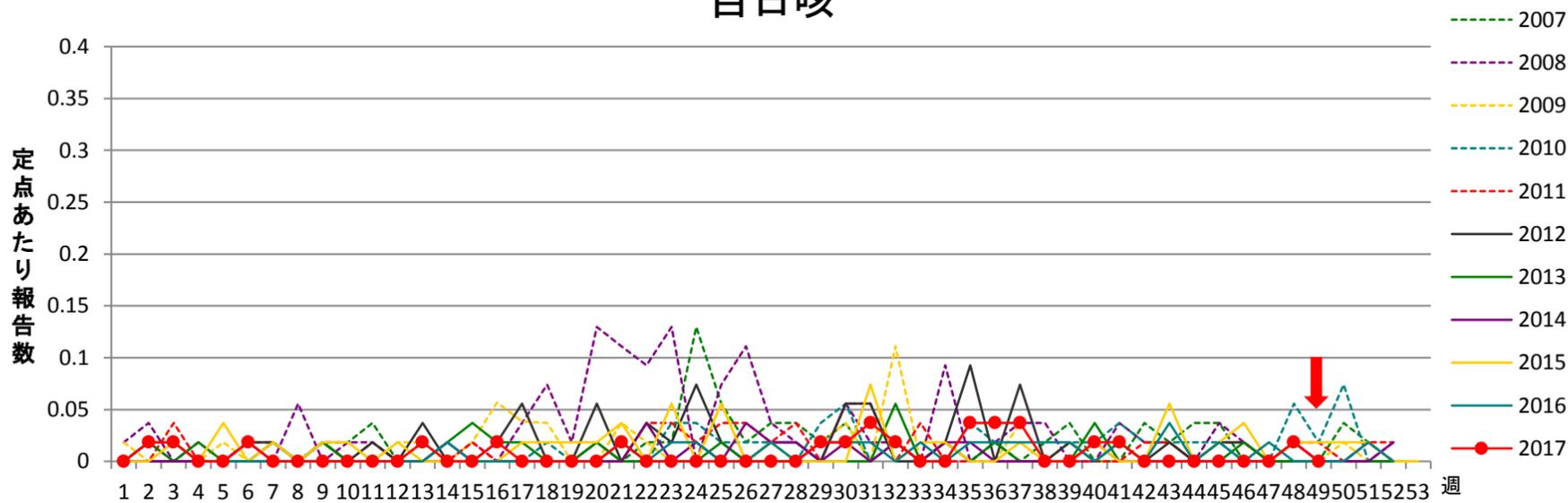
### 伝染性紅斑



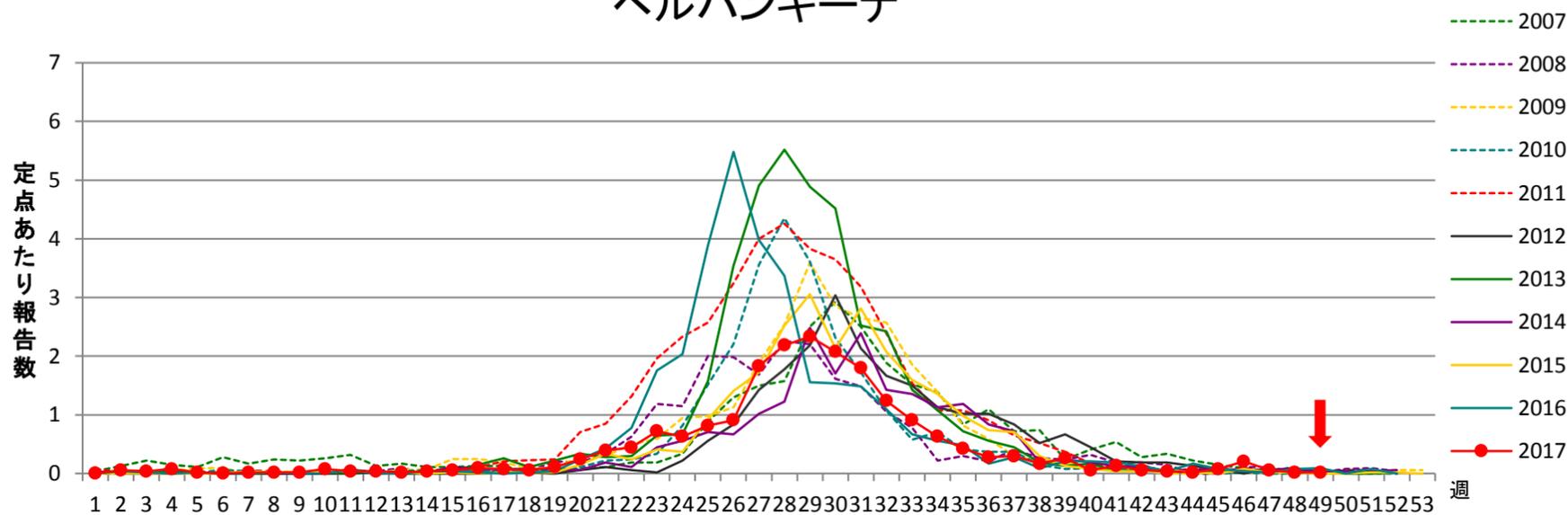
### 突発性発疹



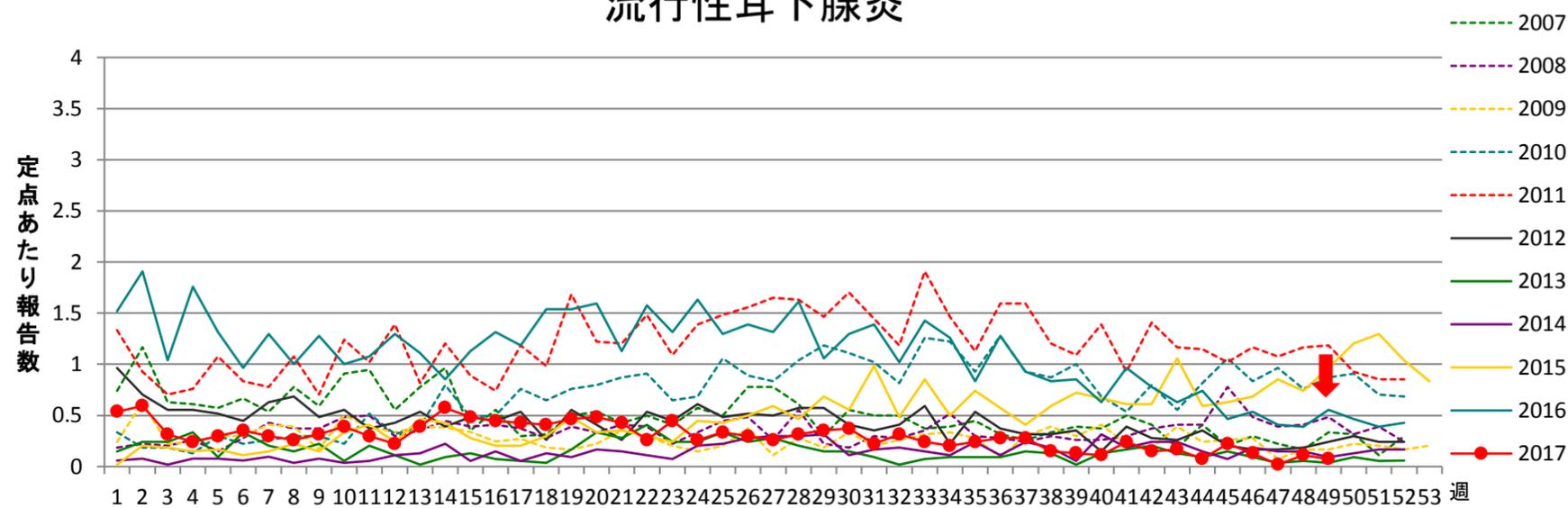
### 百日咳



### ヘルパンギーナ

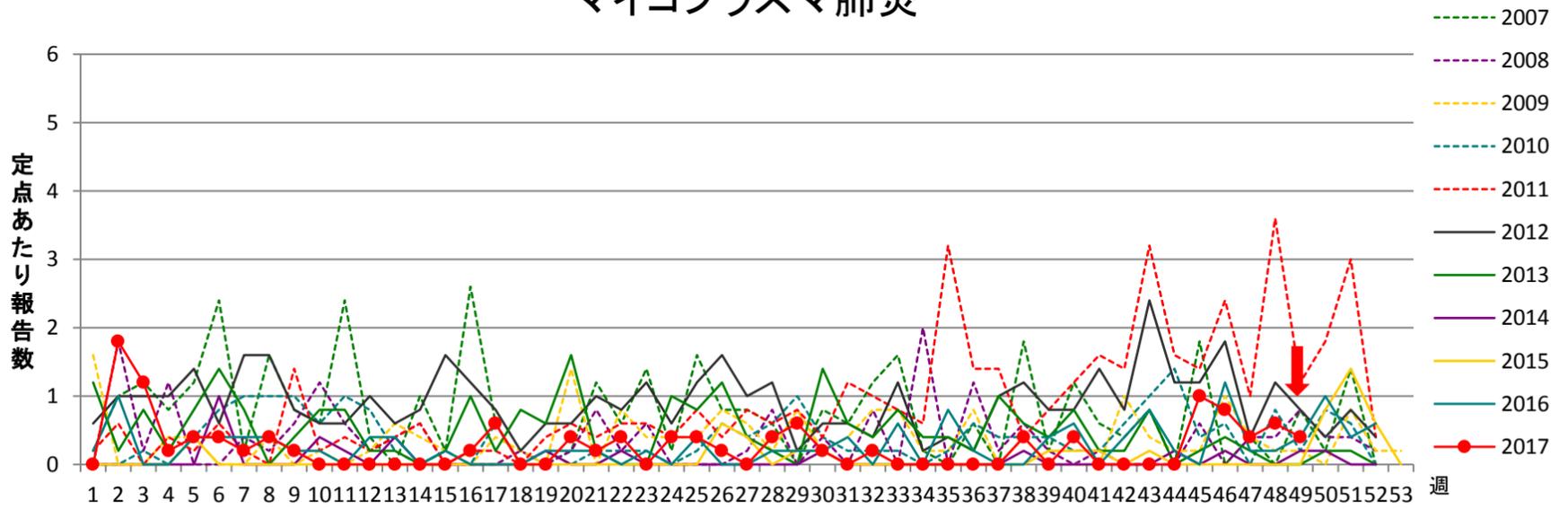


### 流行性耳下腺炎

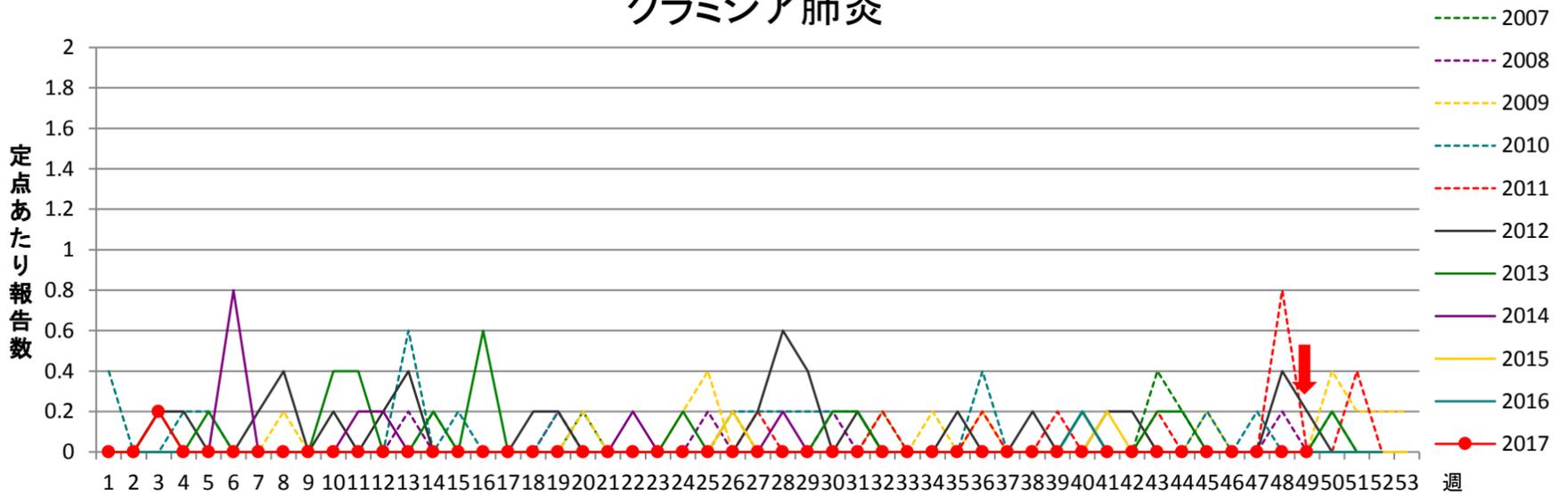




### マイコプラズマ肺炎



### クラミジア肺炎



### 感染性胃腸炎(ロタウイルス)

